



## 地方からのホットライン(令和7年11月)



今回は「もう一度観たい景色」「もう一度戻ってみたい場所」というテーマで原稿をお寄せいただきました。それぞれの方が綴る思い出の景色・場所をお愉しみください。

### ●相良 直哉さん(宮城県仙台市在住)

私は、長崎県の出身で、大学受験を機に上京をしました。当時は、大学を選ぶのに「地元コース」「関西コース」「東京コース」のいずれにするのかが、同級生や先生方との重要な話題でした。現在のように情報が豊富ではなかった時代でしたから、修学旅行を経験した先輩たちからもイロイロ情報を収集していました。Gakkenに入社してからは、文字通りの転勤稼業。福岡、松山、高松、大阪、仙台と赴任をして日本各地の文化を経験し、後半の会社人生では、広域担当として各地を巡りました。今では、それぞれの土地が懐かしく、私にとっての「もう一度戻ってみたい場所・景色」は、これらのすべての土地で、懐かしい再会をかねて、出掛けたいと思っているこの頃です。

### ●金子 幸雄さん(山形県山形市在住)

今回は、いただいたテーマとは違うことを書かせていただきます。それは、山形県独特の「雑草を食べる食文化」についてです。先日、日テレの人気番組「ケンミンSHOW」でも紹介されていましたが、山形では何処にでも生えている雑草を採り、「おしたし」にして辛子醤油で食べる食文化があります。これが美味で栄養満点。物価高騰の折、タダで食べられるこの「雑草」のことを山形県民は『ひょう』と称して愛しています。このほかに、昔、上杉鷹山が植栽を奨励した『うこぎ』があります。これは、幹に棘があり敵の侵入を防ぐために垣根に利用したものなのですが、摘んだ芽が、お茶、おしたし、天ぷらなどに利用できる便利な植物でもあります。TVでは、「垣根を食べる山形県民」と紹介されました。今度、山形に来たら、一度雑草を食べてけろな！

### ●丹野 智彦さん(福島県安達郡大玉村在住)

高校時代に、友人達と塩釜神社で初詣を済ませた後に行った、現在の宮城県東松島市にある野蒜(のびる)海岸で見た初日の出が忘れられません。初めて、初日の出を見に行った私は、石巻湾から昇った初日に(少し雲が出ていましたが)とても感動しました。

高校卒業後は、野蒜海岸まで足を延ばす機会がありませんでした。また東日本大震災で甚大な被害を受けたようで、なかなか行く機会が訪れませんでしたが、その後、だいぶ復興している様子なので一度訪れてみたいと考えています。

### ●堤 満弘さん(長野県長野市在住)

小学生の頃、夏休みになると母方の実家(現・栃木市)に毎年のように行っておりました。地元で「小山」(こやま)と呼んでいた裏山の中腹に大きな岩があり、近所の子供たちや夏休みに里帰りをしていた子供たちとその岩を滑り台にしてよく遊んだものです。見渡す限り山と畑が広がるばかりで民家もまばら。「ヤッホー」と叫ぶと、アチコチの山からこだまが帰ってきて、まさしく70年前の田舎の風景という感じでした。数年前に近くを通る機会がありましたが、雑木が鬱蒼と茂り、昔登った山道も無くなってしまっているようでした。今はどういう風景になっているのでしょうか。一度訪ねてみたいなと思っている今日この頃です。

## ●吉羽 文雄さん(埼玉県さいたま市在住)

《もう一度戻ってみたい場所・一枚の写真から》

そこは、札幌市南区にある真駒内競技場スタンド。例年、5月第2土曜日に開催される「札幌豊平川マラソン」が行われる場所です。60代半ばに参加し、ゴール後、通っていたスポーツジムのスタッフに撮っていただいた写真には、完走票を掲げた私と、私の横には妻が写っています。それまで多くの大会に参加し、スナップ写真もたくさんあるのですが、何故か、この写真だけ左右に妻の貼った赤いハートのシールが・・・。日常のささやかなワンシーンですが、リスタートできるのであれば、この場所からもう一度号砲を聞きたいと思っています。

## ●影山 皓一さん(静岡県浜松市在住)

私がもう一度戻ってみたい場所は、私が生まれたところ、中国河北省の「唐山」(タンシャン)です。しかし、いま手元に、庭先で幼児椅子に座り笑っている私の写真が一枚残っているが、それのみで具体的な唐山の景色の記憶は全くない。27年前、成田から北京に向かった折、北京から東180kmの上空の窓から眼下に広がる真っ暗な景色を見ながら、「このあたりがタンシャンだろうか」と思ったことがある。唐山市は、中国近代工業発祥の地の一つで、河北省最大の重工業都市。約50年前に24万人(公式発表)が死んだという大地震が起きたが、現在は800万人を擁する都市に発展しているとのこと。叶うことなら、この生まれた地であるテンシャンにもう一度戻ってみたいが……。

## ●渡邊 洋二さん(愛知県春日井市在住)

「雪の岩手山」が小生の忘れられない景色です。幼児教育事業部・名古屋市局勤務の20年前の3月中旬、当時の金子部長(現山形市在住)から、東北6県担当の仙台支局長として転任せよとの内示の電話をいただきました。早速、3月末に前任者との引継ぎと有力代理店さんへの表敬訪問を実施。支局の車両で仙台から青森への移動中、雪の岩手山に遭遇し、その雄大さに魅了されました。今も、九州出身の自分にとって、南部富士・岩手山の景色が荒々しくも優しい東北の象徴として心に残っています。

## ●早川 正英さん(愛知県愛知郡東郷町在住)

入社2年目を迎えた昭和38年7月、名古屋支社の年1回の社員旅行の行先は、“常夏のハワイ”だった。ホノルル空港に着くなり、プルメリアの香りと湿気のない青空が旅行気分をMAXしてくれた。ハナウマ湾で泳いだり、アラモアナ・ショッピングセンターの買物などで、存分にハワイ旅行を満喫できた42年前の支社旅行は、私の中では間違いなく「過去イチ」の旅でした。セピア色にかけた写真の中にいる海パン姿の当時のメンバーの若さに、思わず二度見してしまうほどですが、今回のテーマは、昭和の思い出に浸ることのできたテーマでした。

## ●三好 進さん(愛媛県松山市在住)

私にとっての「もう一度戻ってみたい場所」は、昭和61から5年半勤務した山梨の甲府です。ここからは大好きな富士山が毎日見られ、春には山菜、秋には茸狩り、冬にはスキー、そして桃・葡萄・ワインと美味しいものが沢山あります。富士山を見ながら煮貝や鳥のもつ煮で一杯やり、締めにカボチャの「ほうとう」を食せば最高です。東京・横浜にも近く、ディズニーランド、黒部ダム、上高地、軽井沢、松本城、善光寺、伊豆・箱根、鎌倉・江の島、白糸の滝、三保の松原、浜名湖の潮干狩り等々、名だたる観光地へ日帰りで行ける交通の利便性も魅力です。当時、お世話になった支社長の吉田純三さんが定年後山梨に住まわれているのが羨ましい限りです。